

時代をリードする成田



大勢の見物客に囲まれた仮装行列「成田時代絵巻」



平成14年は小学生(左)も参加

平成7年5月、「市民を大切にする市政」をモットーに、小川国彦氏が新市長に就任。市制施行50周年を迎えようとすると本市に、新たな市町村合併の話が浮上しました。

小川市政が誕生

平成7年5月、小川国彦氏が新市長に就任しました。

前市長は、昭和46年の市長当選以来6期24年という長きに渡って市政を担い、多くの功績を残した長谷川録太郎氏。

市内外から大きな注目が集まる中、小川市長は「市民を大切にす市政」を目指し、スタートを切りました。

御利生祭と参道の景観づくり

参道を活性化させようと、成田商工会議所が主体となり「御利生祭」が平成7年11月4日・5日、開催されました。目玉は成田ゆかりの人物に扮した行列が参道をパレードする「成田時代絵巻」。成田山を開基した寛朝大僧正、江戸幕府第2代將軍・徳川秀忠の剣術指南役であった小野派一刀流親子や歌舞伎役者「成田屋」市川團十郎などが登場し、ひと目見ようと参道に大勢の人が詰め掛けました。

御利生祭はこの後も毎年行われ、平成15年に「成田弦まつり」に内容を変更しました。現在も成田の秋の風物詩として多くの人に親しまれています。

一方、市民の協力を得て、参道の伝統あるまち並みを保存し、門前の美しい景観を守ろうとする取り組みも行われました。

上町地区では平成8年から参道沿いの建物を後退させ道を広げるセツトバック事業が始まりました。仲町地区では平成12年から電柱を撤去し電線を地中に埋める事業が行われ、翌年6月に終了。7月の祇園祭を前に記念式典が行われ、電柱やアーケードのない、すっきりした印象のまち並みが披露されました。

2本目の滑走路がオープン

昭和53年の開港以来、4,000メートル滑走路1本で運用されていた成田空港で、平成14年4月18日、2本目の暫定平行滑走路(2,180メートル)が供用開始となりました。

「平成7～16年の出来事」

平成 7年11月		第1回成田時代絵巻「御利生祭」が開催
	4月	全国門前町サミット開催
平成10年	9月	韓国・仁川 ^{インチョン} 広域市中区と友好都市を締結
平成12年	4月	さくらの山がオープン
	1月	韓国・井邑 ^{チョンウップ} 市と友好都市を締結
平成14年	4月	成田空港暫定平行滑走路供用開始
平成15年	3月	デンマーク・ネストベズ市と友好都市を締結
	3月	成田市・下総町・大栄町合併協議会を設置
平成16年	11月	市制施行50周年記念式典が開催



暫定平行滑走路がオープン



電線地中化前の仲町の坂



現在の仲町のまち並み

室伏広治選手が五輪で金

平成16年8月に開催されたアテネ五輪で、成田高校の卒業生である室伏広治選手がハンマー投げで金メダルに輝きました。投てき種目では日本人初の快挙でした。



ハンマー投げを
始めた高校時代



大勢の人に迎えられ母校に凱旋^{がいせん}

滑走路が2本になったことで、年間発着枠が13万5,000回から20万回になり、新規乗り入れ航空会社も14社増加。これに伴い、新たに2万人の新規雇用の創出が見込まれることとなりました。

11市町村の合併が白紙に

平成7年の地方分権一括法による合併特例法の改正により、全国で市町村合併が推し進められました。

本市でも平成14年11月18日、周辺の2市7町で、任意の合併検討協議会を設置することに合意。その後、成田空港圏の2市8町1村が参加して、合併に向けて課題が話し合われました。

しかし、平成15年3月5日、市

11市町村の合併が白紙に

議会で法定協議会設置議案が否決され、合併構想は白紙に。責任を取って小川市長は辞任し、新たにおさむ小林攻市長が誕生したのです。

**市川・室伏両氏に
市民栄誉賞**

平成16年、本市は市制施行50周年を迎えました。

市川・室伏両氏に
市民榮譽賞

4月18日には市内の山車・屋台全16台が一堂に会する「山車まつり」が初めて開催されました。これを皮切りに、さまざまな催しが行われ、メモリアルイヤーを盛り上げました。

また、本市にゆかりのある人物として、12代目市川團十郎氏、陸上選手の室伏広治氏の2名に市民栄誉賞が授与されました。